

福祉とやま

ふれあいネットワーク (福) 富山県社会福祉協議会広報誌

2026
9月号
September

No.489



共同募金の助成で行われた「こどもの森」(子育て支援 寺子クラブ)の活動

目次

CONTENTS

特集 P2~3 共同募金運動80年目にあたって ~共同募金運動活性化と存在意義~

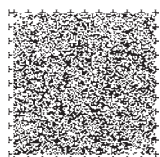
県福祉人材センターから
シニアサークル体験交流会 P4

知っておきたい福祉情報 社会福祉施設経営相談室から
あかいはねトピックス P5

ボランティアグループ紹介
ボランティア活動強調月間 P6

第73回富山県社会福祉大会を開催
とやま介護テクノロジー普及・推進センター展示会2026開催 P7

フリートーク
寄付報告／編集後記 P8



スマートフォン用アプリ「Uni-Voice」
または「Uni-Voice Blind」を使えば
情報を音声で読み上げると同時に、テキストで表示されます。



この広報誌は共同募金の助成を受けています。

共同募金運動80年目にあたって

共同募金運動活性化と存在意義

昭和22年、戦後における民間社会福祉事業の財源の窮乏を補うために「国民たすけあい運動」としてスタートした共同募金運動は、今年80回目を迎えます。

時代のニーズに合わせてその役割を変化させ、現在では「地域福祉の推進」を目的に、さまざまな地域の課題解決に取り組む民間の福祉活動を支援する重要な社会的役割を担っています。

今回の特集では、「じぶんの町を良くするしくみ。」である共同募金運動の今日的な意義や私たち一人ひとりができることについて考えます。

共同募金実績の推移

共同募金における募金の方法は、戸別募金、法人募金、職域募金、街頭募金など様々な方法があります。

富山県内における共同募金の募金額の推移を見ると、平成8年度の2億2,800万円をピークに年々減少しており、令和7年度は1億6,200万円となっています。急速な人口減少社会において、募金額は減少傾向にはありますが、共同募金の意義をより多くの人々に正しく伝え、共感と信頼を得ながら、共同募金運動を活性化していくことが、今改めて求められています。

共同募金の活性化は地域福祉の推進につながります

共同募金は「自分の町を良くするしくみ」をつくる運動であり、地域住民や関係機関、団体との協働によって地域課題や社会課題の解決を図る「運動性」を有しています。

具体的には、①「地域の課題をみつめる」②「課題解決のための計画立案や資金調達（計画募金をする）」③「多様な主体により地域課題解決のために取り組みを行う」④「活動と成果の報告により、理解者と共感者を増やす」サイクル（循環）を示します。そして、その運動性のサイクルを地域に存在する多様な個人



令和8年度運動ポスター



図：中央共同募金会作成

地域で集めた募金は地域で使われています

集まった募金の約70%は募金をいただいた市町村で使われています。残りの30%は、皆様の住んでいる市町村を超えた広域的な課題を解決するための活動や、令和6年に発生した能登半島地震をはじめとした、災害時に立ち上げられるボランティアセンターの活動費など、被災地支援にも有効に活用されています。

共同募金運動を展開するなかで、「共同募金の使われ方がよく分からない」という意見を聞くことがあります。共同募金でいただいた寄付金がどのような団体の活動に活用されているかは、ウェブサイト「赤い羽根データベース」はねっと」でご覧いただけます。「高齢者分野」「障害者分野」「児童分野」「地域福祉分野」など、全国で約4万4千件の活動が紹介されています。皆様の地域の各福祉活動や福祉団体の様々な事業に、皆様からいただいた寄付金が活用されていますので、ぜひご覧ください。

おわりに

人口減少社会において、地域のあり方は変化し続けています。誰もが住み慣れた地域で安心・安全かつ持続可能な地域を創っていく過程において、特定の組織や個人の取組だけでは解決が困難な状態になっています。

こうした中、今年も10月1日から共同募金運動が開始されます。改めて県民が一丸となり、「共同募金を自分のまち（地域）の課題を解決するための大きな原動力にしていけることが必要となります。

○問い合わせ先

(福)富山県共同募金会

TEL 076-431-9800

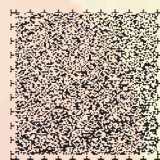


富山県
共同募金会
ホームページ



赤い羽根
データベース
「はねっと」

◆<https://hanett.akihane.or.jp/hanett/pub/home>





町内の福祉施設とコラボした
A4クリアファイル



入善町共同募金委員会では、平成26年から募金グッツを活用した共同募金の啓発活動を行っています。募金額の減少による助成金の減額が課題となる中、寄付の証としてオリジナルグッツを渡す取り組みを始めたところ、予想を上回る反響があったといえます。グッツを通して共同募金をより身近に感じてもらうことがねらいです。

入善町共同募金委員会

共同募金運動活性化に向けた 市町村共同募金委員会の取組み



キャラクターをあしらった置き傘を町内に設置

ボウル三世に赤い羽根を持たせたオリジナルデザインを採用。ピンバッジや高校生の意見を取り入れたトートバッグから始まり、その後は女性職員の視点を生かしながら、日常で使いやすいグッツを企画してきました。近年はマ イバスケッ トや防災グッツが人気を集めているほか、小学1年生へ配布する防犯ブザーなども展開しています。

また、共同募金の助成で整備した置き傘を町内各所に設置したり、助成を受けた団体から寄せられた手書きのメッセージを冊子にまとめたりと、募金の使い道や意義を「見える形」で伝えています。

担当者の声

入善町共同募金委員会

浦田 実さん

「大切なのは、町民の皆さんに共同募金へ共感していただき、納得して寄付にご協力いただくことです。共同募金が地域の役に立っていることを実感していただく」と

助成団体が考える共同募金運動の意義と役割

子育て支援 寺子クラブ（南砺市）

南砺市で子育て支援事業を行う「子育て支援 寺子クラブ」は、2つの事業で共同募金の助成を活用しています。

一つが、自然体験事業「こどもの森」です。子どもたちを取り巻く環境が変化し、自然に触れる機会が減少する中、豊かな自然に恵まれた南砺市ならではの環境を生かし、子どもたちが自然への関心を深め、生きる力を育む機会を提供しています。

もう一つは、子育て環境を良くする為の活動支援です。年2回、南砺市内で「ほのぼのマルシェ」を開催し、人や地球に優しい活動の紹介や、世代を超えた交流の場づくりに取り組んでいます。

共同募金の助成は、活動に必要な材料費や、マルシェの会場費・広報費などに活用されています。子どもたちや地域とのより充実した活動を継続していく上で、助成は大きな支えとなっています。



南砺市内で年2回開催する
「ほのぼのマルシェ」



子どもたちの生きる力を育む
「こどもの森」の自然体験

ともに、共同募金をより身近に感じていただけるような取組みを、これからも楽しく続けていきます。」

問い合わせ先

入善町共同募金委員会

入善町上野2793-11

TEL 0765-7215686

担当者の声

子育て支援 寺子クラブ

代表 齊藤 優華さん

「助成のおかげで、子どもたちや地域の皆さんに多様な活動を届けられています。また、継続することで、私たちのことを知ってくださる方や協力してくださる方も年々増えてきました。支えてくださる皆さんに感謝しながら、これからも活動を続けていきたいです。」

問い合わせ先

子育て支援 寺子クラブ

南砺市本町2-32

TEL 090-1395-6400

まとめ

「共同募金運動」は今年で80周年を迎えます。日本における寄付文化の発展のために、共同募金が果たす役割は大変重要です。より多くの県民の皆様に共同募金への理解と共感を深めていただき、運動への参加の輪が広がることで、県内の地域福祉の推進につながります。





福祉のお仕事フェア in TOYAMA 2026を開催しました！

福祉関係への就職を希望する一般求職者及び2026年度卒業予定の学生を対象に、「福祉のお仕事フェア in TOYAMA 2026」【福祉・介護分野】7月25日、【児童・保育分野】7月26日を富山国際会議場で開催しました。

福祉・介護分野から85法人、児童・保育分野から51法人の出展があり、2日間で延べ165人の求職者などが参加しました。参加した求職者からは、法人担当者からの説明や質疑応答を通して、「複数の法人の話を聞けて良かった」「将来を考える機会となった」との感想がありました。



お仕事フェアの様子

福祉・介護のお仕事相談コーナーを開設します！

以下のハローワークで、当センターキャリア支援専門員が、福祉に関わる職種、仕事内容、求人事業所、資格などの相談に応じます。

●時間 10:00～15:30(※は午後のみ開設します。)

＜相談コーナー開設日＞

高岡	ハローワーク高岡 第4火曜日	小矢部	ハローワーク砺波 小矢部出張所 ※第3木曜日
魚津	ハローワーク魚津 第1・第3水曜日	滑川	ハローワーク滑川 第3火曜日
砺波	ハローワーク砺波 第2・第4金曜日	氷見	ハローワーク氷見 第1木曜日

はじめての福祉の仕事サロンを開催します！

福祉の仕事の基本的な内容や現場の状況などについて、キャリア支援専門員がていねいにお答えします。

- 対象 福祉・介護分野に興味・関心のある求職者
 - 日時 9月24日(木) 13:30～16:00
10月22日(木) 13:30～16:00
 - 会場 サンシップとやま5階 研修室502
 - 定員 各月10名(先着順)
※事前に下記へご連絡ください。
- ※各開催日の3日前までに右記QRコードからお申込みください。



福祉の職場を目指すあなたを応援します！

【問い合わせ先】 県社協 県福祉人材センター

☎076-432-6156

【開所日】月曜日～金曜日(土・日・祝日および年末年始を除く)

【受付時間】8:30～12:00 / 13:00～17:00



「シニアサークル体験交流会」を開催します

長年にわたって培った様々な経験や能力、趣味や生きがいをもっている方々によるシニアサークル活動をステージ発表と体験コーナーにてご紹介いたします。

フレイル予防3つの柱のひとつ「元気で、自立して、社会参加を」をモットーに、自分に合った活動を見つけて、元気な毎日を過ごしませんか？

ぜひ、ご家族やご友人を多数お誘いあわせのうえ、お越しください。

また、小矢部市周辺地域の方も、ぜひご来場ください。

- 開催日時：11月14日(土曜日) 11:30～15:00

- 会場：道の駅メルヘンおやべ 体験交流室・フリースペース

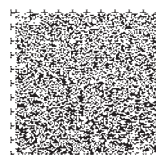
ステージ発表

訪問のマナー、生活文化に関するお話し／太田景子(小矢部市)
ギター&マジック&オカリナ／野田敏博と菜の花(高岡市)
語り部(昔話や民話)／後明志津子(高岡市)
脳トレーニング／福岡いきいき脳トレクラブ(高岡市)

体験コーナー

折り紙／新川紀子(射水市)
バルーンアート／山本清次(富山市)

入場無料
どなたでも
参加できます



○問い合わせ先 県いきいき長寿センター ☎076-432-6010

※発表や体験コーナーは変更になることがあります。

社会福祉施設経営相談室から

労災保険の第三者行為災害とは

～通勤途中に交通事故に遭遇、等々～

中士 政英（社会保険労務士）

労災保険は、労働者の業務または通勤による災害に対して所定の給付を行うことと目的としています。これらの災害の中には、通勤途中に交通事故に遭ったり、仕事で道路通行中に建設現場から落下した物に当たるなどして負傷する場合があります。

労災保険制度上、これらの災害を「第三者行為災害」といいます。第三者行為災害に該当する場合、被災者等（被災労働者または遺族は第三者に対し損害賠償請求権を取得すると同時に労災保険に対して給付請求権を取得することになります。同一の事由について両者から損害の補填を受けることは、実際の損害額より多く支払われ不合理であり、労災保険と民事損害賠償との間で調整が行われます。それゆえに実務的には民間の任意保険が先に給付されるケースが多いです。

しかし、最近、民間の保険給付が遅いなどの理由で「第三者行為災害」を先に申請するケースもあります。

【第三者行為災害となる例】

- ・ 交通事故（自損事故は除く）
- ・ 他人から暴行を受けた場合
- ・ 他人が飼育・管理する動物により負傷した場合

【損害賠償責任となる法条文】

- ・ 民法第709条（不法行為による損害賠償）、第715条（使用者責任）、第718条（動物の占有者等の責任）
- ・ 自動車損害賠償保障法第3条（自動車損害賠償責任）
- ・ 商法第590条（運送人の責任）
- ・ 製造物責任法第3条（製造物責任）

【提出する書類】

- ①被災者に提出してもらう書類
- ②第三者行為災害届（その1・2・3）
- ③念書（兼同意書）
- ④交通事故証明書（原本）
- ⑤示談書（締結されている場合）

Ⅱ相手に記入してもらう書類

- ①第三者行為災害報告書（その1・2）

※実際の業務は、最寄りの監督署労災課と相談しながら、あるいは労働局HPで書類を確認しながらすすめて下さい。

あかいはね トピックス



令和8年度NHK歳末たすけあいの助成申請を受け付けます（予定）

本会では、見出しの助成事業の申請を受け付けます。助成の方針や申請様式等は、10月上旬頃に本会のウェブサイトに掲載予定ですのでご覧ください。申請期限は11月6日（金）を予定しています。

【予定】

（助成対象事業）

「歳末ふれあい事業」

社会福祉施設及び団体等が実施する障がい者や高齢者等の支援を対象とした、ふれあい交流事業や新しい年を迎えるにあたって行う事業及びそれに要する備品（基準額等はウェブサイトをご参照ください）

赤い羽根共同募金はインターネットでも可能

昨今、インターネットを通じた募金方法が注目されています。今回は支払い方法の種類についてご紹介いたします。

インターネット寄付システムでは

●クレジットカード決済

●PayPay

●コンビニ支払い

●ペイジー（ネットバンキング）

●ペイジー（ATM）

●auかんたん決済

●ソフトバンクまとめて支払いの方法で、お支払いいただくことができます。

【寄付の手順】

- ①本会HPの「インターネットで募金ができます」の部分をクリックします。
- ②赤い羽根データベースはねとHPの富山県を指定するサイトが開きますので、「この町に寄付する」をクリックして必要事項を入力

○問い合わせ先

（福）富山県共同募金会
☎076-431-9800
ウェブサイト www.akahane-toyama.or.jp

八十周年
ありがとう。これからも一緒に。

八十周年

ありがとう。これからも一緒に。



富山県共募金



はねと

してください。（寄付先を県全域でなく市町村単位で指定することもできます。）今後定期的に寄付をされることを希望される場合は、「毎月」を選択していただくと、毎月一日に自動的に決済が行われます。詳細につきましては、お支払方法欄の「ご利用ガイド」からご確認ください。

ご利用は、個人としても、法人・団体としても可能ですので、非接触型の募金方法として広くご活用いただければ幸いです。

ボランティア
グループ紹介

子育て家族を地域で支える
あたたかな居場所づくり

「KUJ」ママほっとステーション(黒部市)

黒部市生地地区で活動する「KUJ」ママほっとステーション。子育て家族を地域で支えるボランティア団体として、令和元年に活動を開始しました。毎月1回、黒部市コミュニティセンターで子育てサロン「kocoくじ」を開催しています。



ボランティアスタッフ
通称「ママサポ」のみなさん

活動のきっかけは、代表の富山薫さんが母子保健推進員として赤ちゃん訪問を行う中で、県外から転居し、周囲に知り合いがいないうちで子育てをしている家族と出会ったことでした。一日中子どもと二人きりで過ごすお母さんは大変。

ママが孤独を感じず、安心して子育てができる地域にしたいと、当初は自宅でサロンを開始。その後、民生委員などの協力を得ながら活動の輪を広げ、現在の形になりました。



講師を招いた講座で親子一緒に楽しく学ぶ

サロンでは親子で遊びや学びを楽しむほか、参加者同士が交流する時間も設けています。ボランティアスタッフが温かく迎えることで、育児の悩みも自然と話せる雰囲気。スタッフにとっても、子どもたちと触れ合う時間が楽しみであり、活動のやりがいにつながっています。

そのほか、空き家を活用した子育て家族の居場所「えがおの

いづく処」や、病気や障がいのある無に関わらず誰もが遊べるインクルーシブ・オープンスペース「いこーよ」も開催。地域住民や高校生などとともに、子育て家族をさまざまな場で支えています。一緒に活動するボランティアも募集中です。「ママが元気になるれば、子どもも元気になる」と富山さん。今後は、パパも参加しやすいイベントをさらに充実させたいと意気込みます。



交流タイムを通して参加者同士のつながりを育む

〇問い合わせ先

「KUJ」ママほっとステーション
TEL 0765-56-9576
kujimama.station@gmail.com

10月はボランティア活動強調月間です

10月の「ボランティア活動強調月間」に、心豊かで触れ合いのある地域社会づくりを進めるため「広げようボランティアの輪」をスローガンに県民のボランティア・NPO活動への積極的な参加やボランティア・NPO間の交流促進を図ります。

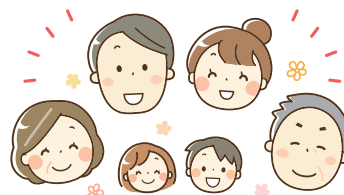
第38回富山県民ボランティア・NPO大会

ボランティア活動推進富山県民会議

日時 10月31日(土) [10:00~15:00]

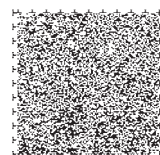
会場 グランドプラザ〈総曲輪フェリオ横〉富山市総曲輪3-8-39

- ◆ステージ発表 ◆大型ビジョンによるPR動画放映
- ◆活動体験 ◆パネル展示 ◆作品等の展示・販売
- ◆「一言メッセージ・川柳」投票 ◆スタンプラリー



富山県民
ボランティア
総合支援センター

〇問い合わせ先 事務局(特非)富山県民ボランティア総合支援センター TEL 076-432-2987



第73回 富山県社会福祉大会を開催します

これまで多年にわたり、本県の社会福祉の発展に貢献した方々を表彰し、感謝の意を表するとともに、多様化・複合化する福祉・生活課題や、社会福祉の諸情勢について理解を深め、多様な関係機関・団体などとの連携・協働の促進を図ることを目的に開催します。

日時 **11月5日(木) 13:00～16:00**

場所 **県民会館 ホール**

13:00～14:20

式典、議事

14:30～16:00

記念講演

講師

町永 俊雄 氏

福祉ジャーナリスト
元NHK福祉ネットワークキャスター

演題

「『自分らしく』を創るための
地域力～私たちの共生社会～」

どなたさまもお気軽
にお越しください

入場
無料



「記念講演講師の町永俊雄氏」

〇問い合わせ先 県社協 総務企画課 TEL 076-432-2958

県社協 とやま介護テクノロジー普及・推進センターは、「とやま介護テクノロジーロジー展示会2026」を6月6日に富山駅南北自由通路で開催しました。

当日は多くの地域の方々・介護・福祉関係従事者が足を運び、最新の介護ロボットやICT機器を実際に見て・触れて・体験する姿が見られました。移乗支援や見守り支援、入浴支援など、27社36製品が並び、来場者からは「こんなに進んでいるとは思わなかった」「介護のイメージが変わった」といった声も聞かれました。

また、ケアマネジャーや看護師など多職種が相談に応じる総合相談ブース、生産性向上相談ブースも設置され、介護に関する悩みや機器導入の相談が寄せられました。さらに、タクティールケア体験やエスポーツコーナー、癒し系ロボットと触れ合える「ろぼっとカフェ」など、子どもから高齢者まで楽しめる企画も充実。

さらに、龍谷富山高校の高校生リポーターによる生中継企画

介護テクノロジーってなに？
最新の技術を見て・触れて・体験！



会場の様子

画や、スタンプリリーによる景品配布も好評で、終始にぎやかな雰囲気になりました。介護をより身近に感じ、地域全体で介護を考えるきっかけとなる一日となりました。

ご来場くださった皆さま、本当にありがとうございました。



高校生リアルタイム中継



タクティールケア体験

〇問い合わせ先

県社協 とやま介護テクノロジー普及・推進センター
TEL 076-432-6305

【相談受付】

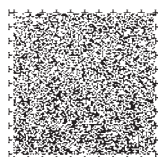
●平日／午前9時から午後5時まで
●土曜祝日／午前10時から午後4時まで

【休館日】

月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始



介テクセンター
HP





人をつなぎ、未来へつなぐ



社会福祉法人
 舟橋村社会福祉協議会
 主事
宮窪 勇太さん

高校三年生の頃、踏切で危険な状況にあった高齢の方を助けたことがありました。その時にいただいた「ありがとう」という一言がとても嬉しく、人の役に立つ仕事がしたいと思うようになりました。この出来事が、私が福祉の道を志した原点です。

現在はボランティア活動のお手伝いを中心に、一人暮らしの高齢者へのお弁当のお届けや外出の支援、生活に困りごとを抱える方の相談など、地域の皆さんが安心して暮らせるよう、さまざまな仕事に携わっています。私が大切にしているのは、「相談しやすい存在」であることです。体を動かす習慣を生かし、地域へ積極的に足を運ぶことを心掛けています。

見るたび、人と人とのつながりが地域を支える大きな力になっていることを実感します。そのつながりを支えているのがボランティアの皆さんです。しかし、活動を長年支えてくださっている方々の高齢化が進み、担い手不足が課題となっています。地域の活動を未来へつないでいくためには、若い世代に活動の魅力を知ってもらい、新たな担い手を育んでいくことが欠かせません。

中学生が参加する職場体験「14歳の挑戦」では、「ここで働くにはどうしたらいいですか」と質問してくれた生徒がいま

した。その言葉がとても嬉しく、地域を支える仕事の魅力が少しでも伝わったのだと感じました。これからも一人ひとりの出会いを大切に、人と人をつなぎ、そのつながりを未来へつないでいけるよう、地域に寄り添いながら歩んでいきたいと思っています。

熊本地震による被災地支援へ 職員派遣を行いました

令和8年熊本地震により被災された方々の生活再建支援のため、熊本市内被災市町村協へ派遣する職員5名の出発式を8月17日に行いました。

高畑専務理事は「被災された方々に寄り添って、一日も早い生活再建、復旧・復興につながるよう、支援にあたってほしい」と激励しました。

派遣職員の代表者は、「皆さんの生活を支える大切な役割であることを心に刻み、職責をしっかりと果たしたい」と決意を述べました。

派遣職員は、8月19日～21日、8月24日～28日の間、生活福祉資金（緊急小口資金）の特例貸付の受付業務に従事しました。



支援への決意を述べる派遣職員代表

ご寄付ありがとうございます

●寄付者一覧 令和8年6月1日から令和8年7月31日まで

- 東京富山県人会連合会 様 250,000円
 (社会福祉事業振興や地域福祉推進のための資金としてご寄付いただきました。)
- DSGグループ 様 10,000,000円
 (災害活動費及びその他災害対策などの資金としてご寄付いただきました。)

県内の社会福祉事業振興や地域福祉推進、ボランティア活動のために活用させていただきます。

編集後記

入善町共同募金委員会の募金グッズは、どれも日常で使いたくなるようなものばかりで、「共同募金をもっと身近に感じてほしい」という職員の皆さんの思いが伝わってきました。また、助成団体への取材を通して、一人ひとりの想いが地域の福祉活動を支えていることを改めて実感しました。皆さんも、身近な福祉への参加として、共同募金に協力してみませんか。

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

だれもが安心して暮らすことができる福祉社会の実現をめざし、県内の民生委員・児童委員や福祉施設、保健・医療、教育、行政、ボランティア等さまざまな関係者の参加のもと、地域福祉の推進を図ることを目的とした民間組織です。

本誌に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

- ウェブサイト <https://www.toyama-shakyo.or.jp/>
- メール info@toyama-shakyo.or.jp

ハーティは富山県のボランティア活動のマスコットマークです。

